

2021年度事業計画書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

今なお新型コロナウイルスは感染拡大状況にあり、収束のきざしが見えません。コロナの影響が長引くなか、生活が苦しい人達が益々増えてくると予想されます。フードバンク関西は、2020年度から拡大してきた個人世帯への直接の食支援事業を継続して行い、関係各機関との連携を深めながら一人でも多くの困窮する人達に支援が届くように、取り組んでまいります。

I 2021年度の重点目標

(1) 受益者拡大に対応するための食品の確保、特にお米の安定確保

当法人受取り団体への食品の提供に加えて、困窮する個人世帯に対する直接の食支援が増大しています。それに対応するため、主食やおかずとなる常温品を提供して下さるよう企業への働きかけ、フードドライブを含む個人への呼びかけを強化していきます。

特に必要量のお米の確保は最重要課題であり、個人からの寄付に頼るばかりでなく、農家や農業組合などの理解を得るよう努め、継続的に入手する方法を開拓していく必要があります。

(2) 他団体や企業、行政との連携強化

フードバンク関西からの食支援を、支援を必要としているより多くの人たちに届けられるように、また、支援が必要な人を点ではなく、多方面から支えることができるよう、関係各機関と日常的にコミュニケーションを図り、互いの事業に相乗効果をもたらすよう連携を強化していきます。

(3) 食品管理システムの改善と作業の効率化

昨年から着手している入出庫管理システム導入にあたって、より適正で使いやすい入出庫管理とボランティアの作業の軽減を目指し、システム設計段階から業者との話し合いを重ね、使いやすく効率のよいシステムを完成させ、適宜修正を加えながら新システムでの入出庫作業、在庫管理を軌道に乗せていきます

(4) ボランティアの参加意識の向上

フードバンク関西は、100人余りのボランティアで活動が成り立っていますが、細かく役割分担がなされ、法人全体として活動する機会が少ない現状があります。特に昨年は、新型コロナウイルスの影響で一同に会してのミーティングやイベント参加の機会がありませんでした。フードバンク関西のボランティアとして自覚とやりがいをもって活動していただけるよう工夫を重ねていきます。

II 事業毎の2021年度企画

(1) 食品の回収事業 企業渉外チーム

コロナ禍の状況好転には時間を要することが想定され、企業・法人は With コロナを前提とした事業方針直しの動きが加速すると思われます。そのことを視野に入れて柔軟な対応をとっていきます。

一方、SDG s の急速な拡大傾向は減速することが予想されます。このことから昨年度に関係性を高めることが出来た行政・法人と、困窮者支援への情報収交換及び共有化を進めると共に農産物生産者からの協力を重点を置き、従来の関係先企業・法人への働きかけを継続していきます。

食品ロス削減に関心はあるがフードバンクへのアプローチ法が分からなかったという企業からの意見を踏まえ、機会のある限り情報発信に努め、より多く協力関係を構築していきます。

世間の食品ロス削減に関心の低調さを実感することからフードバンク啓蒙活動の必要性と対外環境を高めるためにボランティアの協力を得てイベントへの積極参加を図ります。

(2) 福祉施設等への定期的食品分配事業

当法人と合意書を交わしている受取り団体への定期的な食品の分配においては、適切な量と、その団体に適した食品の提供を目指していきます。新規加入を希望する非営利団体については、非営利、福祉的活用といった条件を満たしていれば、随時、受取り団体として加入を認め、食品の提供を行っていきます。年々緩やかな増加傾向にあり、今年度もその傾向が続くと予想されます。

コロナの影響が長引くにつれて生活困窮者の増加が予想され、それらの人達が地域で無料の食糧を入手できるフードパントリー（困窮者に対する食糧の無料配布）が各地で広がることが望まれます。当法人は、食べ物を必要としている人たちにきちんと届けられるかどうかの見極めをしっかりとしたうえで、それらの団体の支援を行っていきたいと考えます。

(3) 食のセーフティーネット事業

今年度においても急速な景気回復は期待できず、雇用状況の悪化が懸念されます。現在、事業協定を結んでいる2市、9社会福祉協議会、1民間事業所からの食支援要請の増加に備え、迅速に支援要請に対応していきます。同時に、まだ事業協定を結んでいない地域の自治体や社会福祉協議会にも働きかけ、「食のセーフティーネット」を兵庫県南部地域に隙間なく広げていくよう努めます。また、各市の担当者間ならびに当法人と担当者間での情報交換の機会である「食のセーフティーネット実務者のための研修会」を、オンラインを含めた形で開催し、相互の協力関係を深めていきます。この仕組みを持続可能なものにしていくための互惠関係の確立を目指していきます。

(4) 子ども元気ネットワーク事業

女性と子どもを支援する民間非営利団体と連携し、ひとり親世帯を多方面から継続的に支えていくこの取り組みは、要支援世帯の生活再建にとっても効果のある取り組みと考えます。今年度も連携団体を増やし、幅広い要支援へのアプローチに努めます。当法人の食品取扱量、発送作業などのマンパワーから判断して100世帯が限界と考えますが、それに達するまでは対象世帯の拡大を続けたいと思います。

定期的に連携団体との情報交換会を開催し、支援対象世帯の情報共有を図るとともに、多方面で活動する団体の知識や情報、支援方法や考え方を互いに知り、支援の質の向上を目指していきます。

宅配料が運営費の負担となるため、クラウドファンディングでの資金調達も視野に入れていきます。

(5) 生活困窮子育て世帯への食支援（食品パックの発送）事業

コロナ禍で困窮する兵庫県内在住の子育て世帯に対して、経済状態、子どもの年齢などの条件を設けて公募し、条件を満たす世帯に対して、米、レトルト食品、菓子などを詰めた食品パックを宅配で送る事業を、夏休み時期と年末の2回実施します。それぞれ、約500世帯を目標に実施します。食品パックに詰める食品を確保するため、食品関連企業や広く一般の個人の方に働きかけ、賛同を得て協力していただけるよう努めます。

(6) 子ども食堂支援事業

① 食品の提供（受取り団体として）

しばらくは会食形式での子ども食堂開催が難しい状況が続くと予想され、調理して使う食材よりも、子どもたちに無料配布する食品の提供を求めるところが多くなると思われます。各団体の活動状況を見ながら、食品調達の面で子ども食堂をサポートしていきます。

② 兵庫こども食堂ネットワーク

2020年度末に会則を改訂し、各こども食堂は地域グループに加入することとし、地域グループの代表からなる「地域代表連絡会」を設けました。地域代表の中から互選によりネットワークの役員を選出するしくみになり、事務局を含めた役員会でネットワークの運営を推進していく体制となります。事務局は、一般社団法人ポノポノプレイスとフードバンク関西が分担して担うこととなります。当法人は、ネットワーク会議の開催など一部の事務局業務の担当となり負担軽減が期待できます。

コロナ禍で子ども食堂の存在がさらに重要になっているにもかかわらず、本来の形で開催できないところが多く、存続自体が危うい団体も多くなっている状況です。引き続き、企業や団体と子ども食堂ネットワークとをつなぐ役割を果たし、子ども食堂の継続発展に協力していきます。

(7) 広報

本年度は、下記項目について活動を進めます。

① ニュース、年次報告書の発行

フードバンク関西ニュースは、年2回の発行を実施します。第44号は、2020年度通常総会後の5月末に、事業報告を主な内容として発行し、ご支援いただいている方々へ郵送します。第45号は、年明け1月頃を予定しています。

年次報告書を5月末に発行し、支援者、企業、関連団体などに配布し、年間の事業報告と活動紹介に活用いたします。

② 広報イベントの開催 他団体主催のイベントへの参加

・当法人主催のイベント

世界食糧月間である10月に、「食品ロス削減と当法人の活動を広く市民の皆様に周知する機会」として企画します。内容や規模はコロナの状況を見て判断いたします。

第4回「いのちとくらしの映画祭」 12月開催予定 当法人を含む実行委員会主催

・他団体主催のイベントへの参加

6月～7月 第2回六甲アイランド ファーマーズフェスタ ジェイカス主催

10月 兵庫県農林漁業祭 兵庫県農政局主催

③ SNS を活用しての広報

新しいホームページは、SNS と連動しており、タイムリーな活動の状況がホームページでも見られ

るようにしています。facebook では随時、当法人の活動の新鮮な情報を発信するよう努めていますが、当法人の活動の各分野を網羅できるよう発信担当者を広げていきます。facebook のほか twitter も活用していきたいと考えています。

Ⅲ 法人運営について

幸いなことに、昨年度は個人の方からの大口の寄付をはじめ、たくさんの方々にご支援いただくことができ、安定的に運営をすることができました。コロナ禍が続く中で今後の社会、経済がどのようなようになっていくのか予想が難しく、一般市民の皆さまからの寄付に依存する当法人にとっては今後の法人運営に不安要素が大きいです。一方、食品ロスを減らし、必要とするところへ食べ物を届けるフードバンク活動は、社会においてその存在意義が増しています。そのようなフードバンク活動を様々なツールを用いてできるだけ多くの方に知っていただき、ご支援いただくよう努めていきます。さらに安定的な運営ができますよう、フードバンク活動を支える制度や行政からの継続的な運営費の補助を期待いたします。

フードバンク関西は、食べ物を通じて人と人をつなぎ、誰もが安心して暮らせる社会を目指します。余っているところから足りないところへ、何か助けをしたい人から助けを必要とする人へ、多くの企業や団体、個人の方々の賛同を得るよう努め、助け合いの輪を広げていきたいと思えます。関係各機関と連携し、フードバンク活動が社会のしくみとして定着していくよう努めてまいります。皆さまのご支援と協力をお願いいたします。